

おたのしみフォーラム

第10号

H19年8月30日



2007年浅草サマバカニニールより
撮影協力: 波多野 武様

早出・遅出の訓練について ～「出来るADL」から「しているADL」へ～

作業療法科長 関谷 修

東京都リハビリテーション病院は一般病棟46床と回復期リハビリテーション(以下リハ)病棟が3病棟119床のリハ専門病院であります。回復期リハ病棟は急性期病院からリハの適応となる患者様を可能な限り早期に受け入れ、集中的に介入し、可能な限り治療効果を引き出すことを目的とした病棟です。そこで作業療法科では通常の訓練室で行う訓練以外に、早出(午前6時15分より午後3時)、遅出(午前10時45分から午後7時30分)という勤務体制をとり、病棟に入り、看護科と共同で、食事、着替え、排泄、入浴などの日常生活活動(ADL)の能力について訓練を行っています。これは訓練室で行う訓練により可能となったADLの能力(出来るADL)を、患者様の生活の場である病棟において、習慣化、定着化する(しているADLに変える)事を目指したものです。早出の時間を他の病院より早めに設定したのは、この時間でないと患者様はすでに着替えを終えている事が多いためです。作業療法士が病棟にはいることで、実際に必要となる場面でのADLの状況を把握しやすく、その場で訓練が出来ること、看護科との指導内容の統一が図れること、家族に対しても指導の時間が取り易いなどの利点から、患者様それぞれに合理的な指導が行われ、効果が期待できるものであります。ADLの諸動作は毎日行われるものであり、患者様にとってつらい動作であっても長続きしません。退院後の生活を見据えて、その障害や家族状況、家屋環境なども考慮したより適切な方法を患者様と一緒に探していくことが重要と考えています。

東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

19年度地域リハビリテーション支援事業進捗状況ご報告

1. 第2回地域リハビリテーション連絡協議会(墨田区域)幹事会



平成19年7月11日、平成19年度第2回地域リハビリテーション連絡協議会(墨田区域)幹事会が開催されました。平成19年事業進捗状況や各部会からの報告等がなされ、これらについて活発に討議されました。

討議では「リハビリサポート医[※]」が現状のシステムでは、診療報酬に反映されない事から、日常業務の傍らリハビリサポート医登録を希望する医師が少ないのではないか等、システム化にあたり、早急な診療報酬付加や補助金などの基盤整備を進めることが重要であると確認されました。

その他、今後の展開として、同一医療圏(区東部保健医療圏)である江東区、江戸川区との協力に付いても話し合いがさ

れ、2区の行政機関などにもリハビリテーションサポート医の理解を求めていく意向が確認されました。

※地域の先生方に、リハビリを終え退院した患者さんを、身体機能面を中心として診察していただき、維持期のリハビリについて指導していただく(診察・指導方法はリハ病院の医師が応援)仕組み。

2. 地域リハビリテーション連絡協議会 各部会活動報告

(1)調査研究部会より

平成19年6月30日と7月30日に調査研究部会が開催されました。調査研究部会は、リハビリテーションマップの作成及び管理、リハビリテーションの資源やニーズの調査を中心に活動する部会として改組されました。墨田区役所や訪問看護ステーション連絡会、地域包括支援センター、東京都リハビリテーション病院の各スタッフが部委員として参加しております。

今年度の目標として、墨田区内のリハビリテーション資源調査及びリハビリテーションマップの作成が掲げられて、準備を行っております。リハビリテーションマップにつきましては、具体的な編集方法や役割担当などを踏まえた議論がされ、コンセプトは①「区民の皆様役に役立つことのできるもの」②「今までに類を見ないもの」に仕上げることとなりました。また、医療・福祉従事者様向けには、インターネットによる公表方法を検討していく事も確認されました。区民向けのリハマップ(紙媒体)は、来年3月の完成を目指し調査・作成を開始いたしますので、皆様ご期待下さい。



(2)広報部会より



平成19年7月4日 広報部会が開催されました。広報部会は、区民公開講座の企画・運営・広報、地域リハビリテーション連絡協議会の広報等を目的として組織されております。調査研究部会同様に東京都リハビリテーション病院が事務局となり、墨田区、保健センター、ヘルパー事業者連絡会の各代表から構成されております。

今回の会議では、平成19年度区民公開講座の開催予定等について討議されました。特に、直近の9月8日(土曜日)に開催されます区民公開講座に関するチラシ案討議や広報方法等の話し合いがなされました。公開講座がより多くの方に参加して頂き、滞りなく開催されるよう部員一丸となって準備する

ことが、確認されております。

また、次回会議開催時には、平成20年度区民公開講座案等について、話し合いがされる予定で、地域の皆様がどのような内容の講習を求めているのか?等、日常からアンテナを張り巡らせる毎日が続くと思っております。10月には医療従事者向けの公開講座、2月にも再度区民公開講座の実施予定もありますので、広報部員一同、皆様の参加をお待ちしております。

【お問い合わせ】東京都リハビリテーション病院 地域リハビリテーション科(内線368)まで

平成19年度 講習会スケジュール

東京都リハビリテーション病院は、地域リハビリテーション支援センターとしての役割を担い、地域リハビリテーション連絡協議会等と協力をしながら、随時講習会や研修会を実施しております。これは平成13年に東京都で初めて地域リハビリテーション支援センターに指定された時より継続実施している事業です。近隣の医療福祉関連機関では実践に役立つ講習会としてリピーターの方が、数多く出席されております。墨田区、江東区、江戸川区にてリハビリテーションに関連する事業に従事する方(医師・看護師・ケアワーカー・ケアマネージャー・療法士等)が受講対象(無料)となります。

参加希望がございましたら、連携室までお問い合わせ下さい。

開催日	内容	担当	開催場所
6月27日 (水)	介護保険特定疾患とリハビリテーション	MD堀田	東京都リハビリテーション病院大会議室
7月19日 (木)	移動・移乗の安全な介助の仕方	PT相馬	東京都リハビリテーション病院運動療法室
8月30日 (木)	地域で探すリハビリテーション	MSW武山	東京都リハビリテーション病院大会議室
11月予定	骨・関節疾患の在宅リハビリテーションについて	MD、OT	東京都リハビリテーション病院大会議室
12月予定	脳卒中患者における言語療法に対するリハビリテーション	MD、ST	東京都リハビリテーション病院大会議室
1月予定	家庭でできるリハビリテーション	PT相馬	東京都リハビリテーション病院大会議室
3月予定	高齢者の口腔ケア入門	MD	東京都リハビリテーション病院大会議室

「国際看護交流の熱き一日」

国際看護交流 看護指導者育成コース研修

看護部長 鈴木順子

今年も財団法人国際看護交流協会の依頼で開発途上国の看護指導者育成コース研修を受け入れました。研修日の7月23日(月)は民族衣装を身につけた研修員10名と通訳2名の方をお迎えいたしました。全員の自己紹介に引き続き、当院の林院長が「リハビリテーション看護とは」の講演を流暢な英語で行い拍手喝采を受けました。看護部からは昨年度作成した「暮らしのなかの元気づくり」の英語バージョンをプレゼントいたしました。



この冊子が各国で活用されていくことを思うと胸にこみあげてくるものがあります。

また、今年度は蟻田看護科長補佐がこの3月にインドネシアジャワ中部地震災害地を訪れた時の教訓からプログラムにトランスファー(移乗)の演習を企画いたしました。地域リハ科の相馬理学療法士による「基本動作における介助方法について」の実技指導はエビデンスに基づいた説明であり、研修員から高い評価があったと後日、交流協会事務局から報告を受けました。午後からの院内見学では各部門

から丁寧な説明をうけ自国の医療事情との違いを痛感したようでした。研修を受け入れた私達にとってもそれぞれの国の実情を知る機会となったばかりでなく、同じ看護に携わるものとして国境を超えた一体感が持てた熱き一日でもありました。



赴任医師紹介【1 出身大学 2 指定医・認定医・資格など 3プロフィール】

医長 武原 格(たけはら いたる) リハビリテーション科

1. 東京慈恵会医科大学医学部
2. 日本リハビリテーション医学会専門医・認定医・指導医・指導責任者、身体障害者福祉法第15条指定医(肢体不自由・音声機能・言語機能・そしゃく機能障害) 義肢装具等適合判定、日本温泉気候物理医学会温泉療法医
3. 平成19年7月より当院に勤務しております。急性期病院で行われたリハビリテーションを継続し、在宅生活や社会復帰へ滞りなくつなげていくために、より良いリハビリテーションを提供できるように努力して参ります。また、地域連携を深めていくことも1つの課題と考えております。今後、嚥下障害患者様に対して、評価・治療・アドバイスを行えるように、システムを構築し、当院の特徴の一つとしていきたいと考えております。



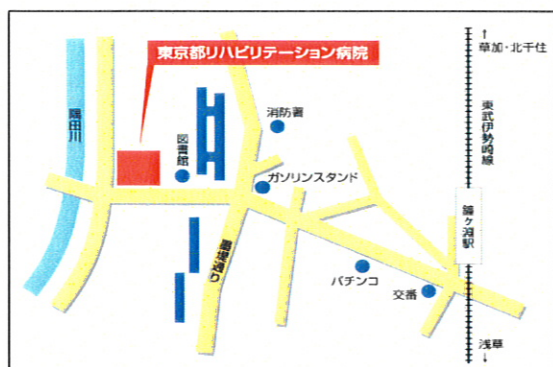
医員 早稲田 真(わせだ まこと) リハビリテーション科

1. 川崎医科大学医学部医学科
2. 日本医師会認定産業医
所属学会：日本リハビリテーション医学会、日本内科学会、日本神経学会、日本臨床神経生理学会、脳卒中学会、日本脊髄損傷医学会
3. 平成19年7月1日より当院に赴任いたしました。リハビリテーションに関わる職種が協力して、リハビリテーションで機能改善を目指すのは勿論のこと、家庭復帰や職場復帰を患者さんやそのご家族と協力して行なえることはないかと日々考えております。今後ともよろしくお願い致します。



医員 松本はるひ(まつもと はるひ) リハビリテーション科

1. 千葉大学医学部
2. 日本リハビリテーション医学会会員、義肢装具等適合判定医、ACLS(二次救命処置)プロバイダー
3. 東京厚生年金病院にて初期研修を受け、東京大学病院リハビリテーション部に勤務、2007年4月より当院勤務しています。患者さんやご家族と一緒に悩み、問題が解決できたときに幸せを感じます。皆さんが笑顔で退院していかれるように努力して参りますので、宜しくお願いいたします。



東京都リハビリテーション病院 交通案内

- (電車) 浅草から東武伊勢崎線鐘ヶ淵下車徒歩7分
北千住から東武伊勢崎線鐘ヶ淵下車徒歩7分
- (バス) 両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院(路線番号：墨38)」行き(約30分) 終点下車
- (お車) 首都高速六号線堤通ランプ下

本誌に関しますメールでのお問い合わせご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

renkei-ito@tokyo-reha.jp